

文=五月女善重
(五月女総合プロダクト)

僕らのイメージ

名古屋から東京行きの新幹線に乗りして7号車の自動ドアが開いたとたん、車中に広がる独特の空気を感じた僕は、そこに絶大な人気を誇る2人組のバンドのメンバーが居ることに気づきました。メンバーは一人だけでしたが、お付きの人がその車両の大半を占めていました。品川駅に到着した御一行は、彼を囲むようにぞろぞろと降りて行きます。

東京駅に着いた僕が、先ほどまで彼がいた無人のシートを横切ると、出っっぱ

なしのテーブルの上に食べ散らかした駅弁の箱が、くしゃくしゃの包装紙とともに放置されていました。それを見た瞬間、ファンというわけでもないのに、なぜかガツカリした気分になったものです。

「それはマネージャーさんがいけませんね」と社員が言います。「一般の乗客が見たらどう思うか、お付きの人は常に考えなければいけません。イメージを守るのも仕事のうちですから」

たしかに、芸能人のように夢を与える

職業や、社会的立場のある方は周囲に与える影響も大きいのですから、振る舞いには十分留意すべきなのでしょう。

僕の趣味のひとつに、お笑い番組の視聴があります。何も考えず楽しめるお笑いに、日頃の心労が癒されているようです。そんな番組に影響され、芸人さんのネタや口癖などが、口をついて出ることもしばしばあります。

弊社が運営するスポーツクラブでトレーニングをしていた時のことです。ベンチプレスの合間、ふと「ケイン・コスギのマネをする山本高広」のネタである「大胸筋・後背筋・上腕二頭筋、スベテ鍛エレバ、君モ、パーフェクト・ボディ！」というモノマネが頭をよぎり、仕草と口調をそっくりそのまま真似したところ、トレーナーが目を丸くして「社長、イメージが」と小さく叫びました。そのあわてぶりに「あ、僕は冗談など言わないカタイ印象で見られているのだ」と妙に納得してしまったのです。皆さんは、周囲からどのようなイメージで見られているか、考えることはあるでしょうか？

心理学で「ジヨハリの窓」という言葉があります。「自己の思考&行動は4つに分類される」とい

うものです。

● 開放：自分も他人も知っている自己

● 秘密：自分しか知らない自己

● 盲点：他人は知るが自分は知らない自己

● 未知：自分も他人も知らない自己

特に「盲点」である「他人は知っているが自分は知らない自己」は、悪い部分を指すことが多いのですが、僕らのような立場ではなかなか欠点も指摘されません。しかし自己の欠点を野放しにしておく、二代目ゆえの天真爛漫さが危険な方向に増幅し、知らぬ間に悪いイメージが独り歩きする可能性もあります。企業イメージにも責任を持つ僕らは、自己の短所も把握した上で、「なりたい」イメージに近づく努力をするのも、大切な仕事かもしれません。

個性によりイメージはそれぞれ異なるものだと思いますが、社員を「ガツカリ」させてはいけないということだけは、僕らに共通する普遍的なテーマのようです。 [AJ]



さおとめ・よししげ
五月女総合プロダクト株式会社代表取締役社長。大学卒業後、父親の営む建築資材会社を経て、26歳でホール業界に。釘調整など現場仕事を体験する中で「自分の代になる」という強い意思のもと2000年に屋号をライブガーデンに変更、2003年代表取締役就任。「スタッフが主役の会社づくり」を掲げ、栃木県南部を中心に現在9店舗を経営。1965年生まれ。